

東証1部総合指数

2010.9.2

<日足から想定される今後1週間程度の相場>

日足は回帰値(緑色の実線)を跨いで短めの陽線となっています。回帰値を跨いだ後は転換しやすいタイミングとなりますから、今後、下落して下値圏(水色の帯)へ向かう可能性も、上昇して高値圏(桃色の帯)へ向かう可能性も、五分五分と考えた方が良いでしょう。

<週足から想定される今後1カ月程度の相場>

週足は高値圏と回帰値の間で上下に影の長い陰線となっています。当面は一段下落して実体(ローソク足の太い部分)が回帰値を跨ぐ場面があると想定されますが、回帰値を跨いだ後は転換しやすいタイミングとなりますから、その後の展開については、日足と同様、上下どちらの可能性もあると見た方が良いでしょう。

<月足から想定される今後3カ月程度の相場>

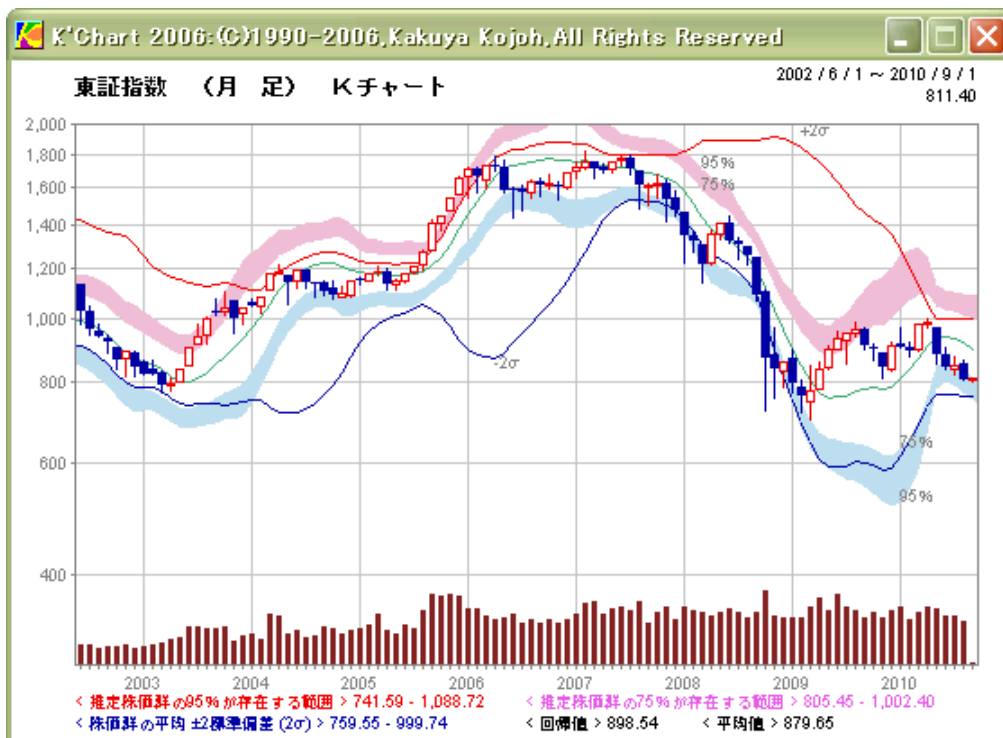
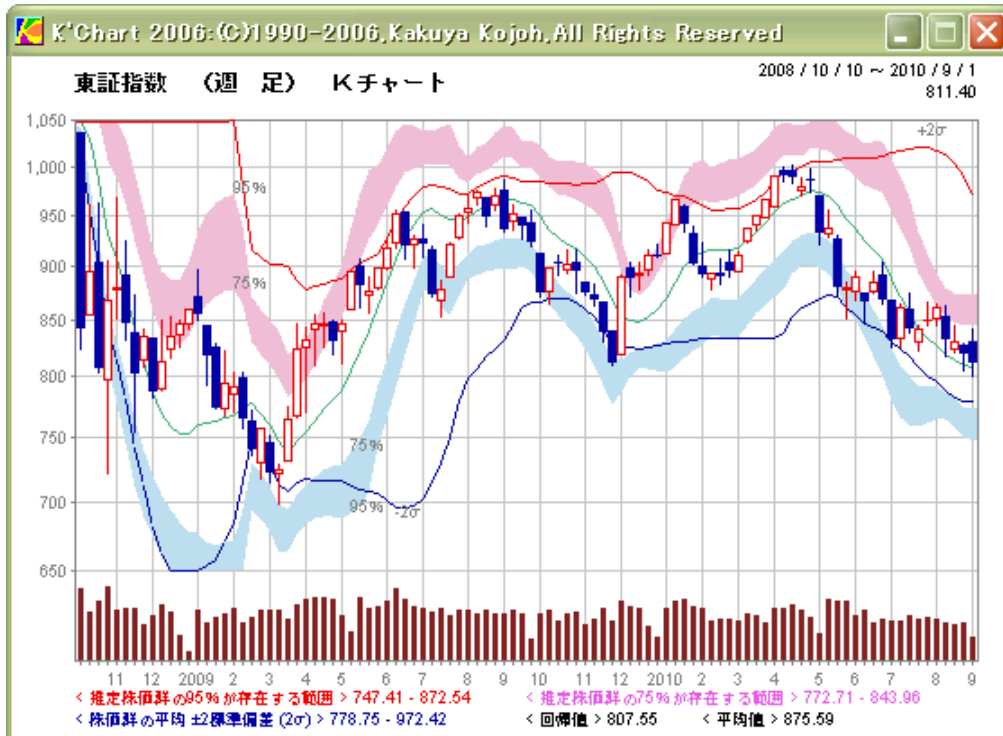
月足は下値圏の上端近傍で始まりました。今月末に下値圏から浮上する陽線となって終わるようなら、今後回帰値へ向かって上昇する展開が期待されますが、下値圏の中に入る陰線となって終わるようなら、下値模索の展開が続くと想定することになります。

足下の企業業績が堅調であるにもかかわらず、一部の指標では景気が踊り場に差し掛かっている可能性があることを示唆しており、急激に進んだ円高と政治的無策に対する漠然とした不安感もあって、株式市場は調整を続けています。民主党の代表選で誰が選ばれるかを気にして債券相場が荒い展開となっていますが、鏡像相場である株式市場もそれに合わせて上下する可能性もあり、9月中旬決算が接近していることもあって、予断を許さない場面が続きそうです。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではなく、その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではなく、その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。